

No.	種 別	内 容
7	基準項目	施設・設備
	指摘事項	1) 情報インフラのセキュリティーチェック体制と機器の更新計画の立ち上げが必要である。
	評価当時の状況	<p>ますます高度化し悪質化するアタック・ハッキングや、ワームやウイルスの脅威に対応するためには、常に最新のセキュリティ対策をとる必要があるが、研究室や部局のパソコンに対しては、教職員や学生のセキュリティ意識に頼らざる負えない点もあり、学内数千台のマシンを常に均一に保つことの難しさを意味している。</p> <p>このように、学内に持ち込まれたパソコンからの不正アクセス防止については、セキュリティレベルの低いマシンが内部に存在する場合に關しての対策が不十分であったため、対応できるソリューションの導入を視野に入れ調査を行なっていくものとする。ただし、現時点で適切なソリューションが存在しないため、当面はセキュリティに対する啓蒙活動の強化で対応していくとともに、学内ネットワークの運営も含め、より厳格で詳細にわたるセキュリティポリシーの検討・作成を行なっていくこととする。</p> <p>また、本学が従来よりポリシーとして培ってきたオープンなネットワークを推進するため、平成 17 年に SSL-VPN の導入を行い、学外からの接続に關してもセキュリティ性を維持しつつ学内と遜色ない接続形態を提供するサービスを行なう。</p> <p>FITNeS そのものについては、新校舎建設に伴い段階的にインフラ整備を行なっているため、初期（平成 11 年度）に導入した機器の老朽化が今後問題になると思われる。この点についても対策を検討する必要がある。</p>
	評価後の改善状況	<p>様々な脅威に対応するため、セキュリティに対する啓蒙活動および対策強化（平成 19 年：ウイルス・迷惑メール対策強化、平成 20 年：ウイルス対策ソフトウェアのライセンス導入）を実施し、教職員対象の対策は充実してきた。</p> <p>しかし、費用の制約から学生利用パソコンの対策はなお不十分であるため、21 年度以降にウイルス対策ソフトウェアの全学的ライセンス導入に向け、検討を行う方針である。</p> <p>また、本学が従来よりポリシーとして掲げてきたオープンネットワーク化を推進するため、従来のダイアルアップ接続サービスに加え、平成 17 年（学生用）および平成 19 年（教職員用）に SSL-VPN の導入を行い、学外からの接続に關してもセキュリティ性を維持しつつ学内と遜色ない接続形態を提供するサービスを行っている。</p> <p>FITNeS そのものについては、新校舎建設に伴い段階的にインフラ整備を行なっている。初期（平成 11 年、平成 12 年）に導入した本部棟・C 棟・A 棟ネットワーク機器については、更に高速度帯域（建屋間を最大 10Gbps など）かつ高信頼性のシステムに更新するため、平成 21 年 10 月稼働開始を目指し、情報処理センター運営委員会で更新設備の検討を進めている。</p> <p>平成 19 年 10 月に教育・研究用の計算機システム（BeNeFIT：Best Education & Research Network Environment in FIT：構成図は別添）を更新し、同時に、授業での PC 演習室使用の希望の増加、パソコン演習室使用授業の受講者数分布に合わせて、PC 演習室の分割と追加（教室レイアウト図を巻末資料 3 に示す）を実施した。こうして、情報処理センターの各演習室とオープン利用のコンピュータギャラリーを合わせた教育用パソコンの台数（約 400 台）を最適に分散配置し、パソコンの利用率を向上することで、需要増に対応することができた。</p> <p>各 PC 演習室設置パソコンでは、多様化する教育ニーズに対応するため、最新の ICT（情報通信技術）を駆使し、ソフトウェア環境において、ネットワークブートによる健全かつ柔軟な環境変更と仮想化技術を用いて授業用途に応じた OS（Windows, Linux）を即座に利用可能とするなど、情報基礎教育から IT プロ育成まで対応可能なシステムを有し、各種有用ソフトウェアを多数完備している。</p>
改善状況を示す具体的な根拠・データ等		<p>点検・評価報告書（2008）p405 巻末資料 24 学内総合情報ネットワーク（FITNeS）、 巻末資料 25 情報処理センターシステム構成図 参照</p>

<大学基準協会使用欄>	
検討所見	
改善状況に対する評定	1 2 3 4 5